

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI-Man リキッド・トレンド・ファンド（愛称：リキッド・トレンド）」は、2026年1月15日に第3期決算を行いました。

当ファンドは国内外の投資信託証券への投資を通じて、実質的に先進国および新興国の多様な資産に投資することで、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第3期末（2026年1月15日）

基準価額	13,446円
純資産総額	13,168百万円
第3期	
騰落率	34.9%
分配金（税込み）合計	0円

（注1）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

（注3）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しています。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBI-Man リキッド・トレンド・ ファンド （愛称：リキッド・トレンド）

追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

交付運用報告書

第3期（決算日：2026年1月15日）

作成対象期間（2025年7月16日～2026年1月15日）

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<https://www.sbiasset.com/jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2025年7月16日～2026年1月15日)



期首：9,966円

期末：13,446円 (既払分配金 (税込み) : 0円)

騰落率：34.9%

(注1) 当ファンドは国内外の投資信託証券への投資を通じて、実質的に先進国および新興国の多様な資産に投資することで、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

当該期間、債券・金利、通貨セクターから損失が発生したものの、商品、株式セクターからそれを上回る収益を獲得し、プラスのリターンとなりました。

- ・債券・金利セクターでは、米国10年債のロング・ポジションや英国10年債のショート・ポジションがマイナス寄与しました。
- ・通貨セクターでは、米ドルに対するユーロや英ポンドのロング・ポジションがマイナス寄与しました。
- ・株式セクターでは、主に米国大型株式、日本株式、英国株式のロング・ポジションがプラス寄与しました。
- ・商品セクターでは、金や銀のロング・ポジションがプラス寄与しました。

当該期間、為替は円安ドル高が進み、為替ヘッジなしの当戦略にプラス寄与しました。

1万口当たりの費用明細

(2025年7月16日~2026年1月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	23 円	0.211 %	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(7)	(0.061)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(15)	(0.139)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.011)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	—	—	(b)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	—	—	(c)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	1	0.008	(d)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(1)	(0.005)	開示資料等の作成・印刷費用等
合 計	24	0.219	
期中の平均基準価額は、11,038円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

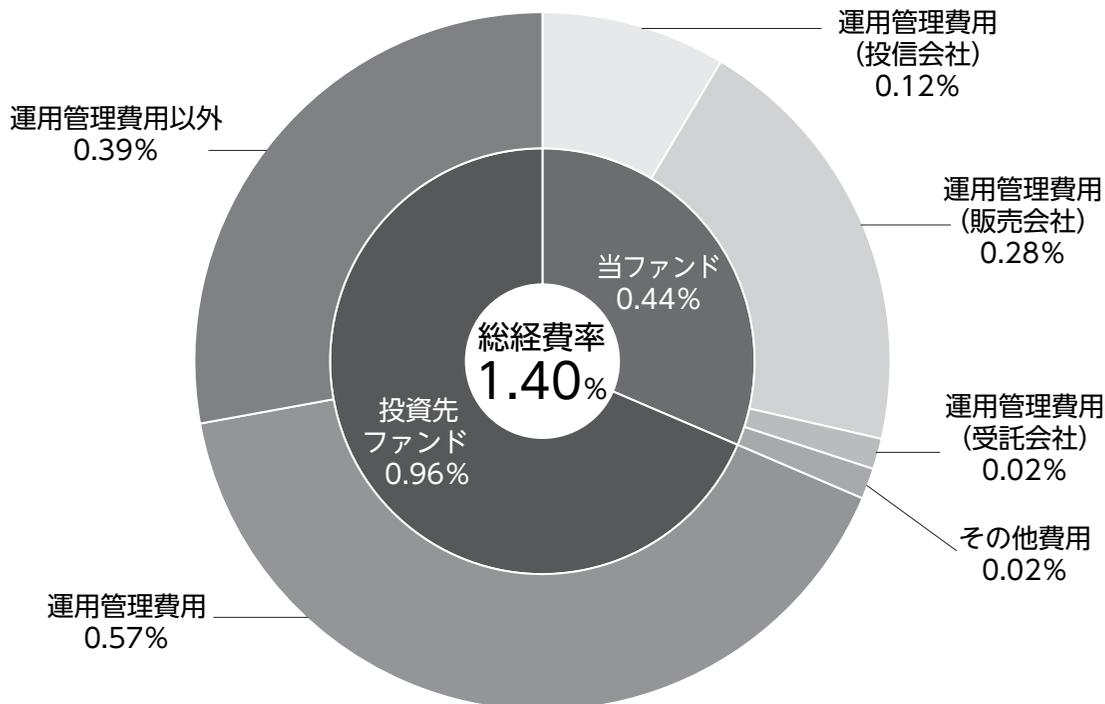
(注5) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(注6) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.40%**です。



(単位：%)

総経費率 (①+②+③)	1.40
①当ファンドの費用の比率	0.44
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.39

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) 当ファンドの費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注7) ①と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2021年1月15日～2026年1月15日)



(注1) 当ファンドは国内外の投資信託証券への投資を通じて、実質的に先進国および新興国の多様な資産に投資することで、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

(注2) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ (2024年8月16日～2026年1月15日) のみの記載となっています。

(注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

	2024年8月16日 設定日	2025年1月15日 決算日	2026年1月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,454	13,446
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	14.5	17.4
純資産総額 (百万円)	4,720	17,065	13,168

(注1) 当ファンドは国内外の投資信託証券への投資を通じて、実質的に先進国および新興国の多様な資産に投資することで、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2025年1月15日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

（2025年7月16日～2026年1月15日）

<債券・金利市場>

債券・金利市場では、7月は米連邦準備制度理事会（FRB）と欧州中央銀行（ECB）からのタカ派的なコメントにより国債利回りが上昇（債券価格は下落）しました。9月に米国債は利下げサイクルの再開により月の前半は金利が低下しましたが、月の後半には継続的な利下げ観測の後退により金利が上昇しました。10月には米国債の利回りは月末時点で1年超ぶりの低水準となったものの、月末にかけてFRBのタカ派的なコメントにより売られました。英国債は追加利下げ期待の高まりにより上昇しました。12月はECBの2026年利上げ観測により、欧州債券を中心に下落しました。

<通貨市場>

通貨市場では、7月に米ドル指数が6ヶ月連続の下落から反発しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）でのパウエル議長の利下げに対する様子見の姿勢がドル高を促進し、主に英ポンド、ユーロ、日本円に対して米ドルが上昇しました。8月は米ドルがほとんどのG10通貨に対して下落しました。特にユーロが対ドルで大幅に上昇しました。9月は米ドルが欧州通貨に対して月間を通じて継続的に下落した一方、日本円やカナダドルに対して上昇しました。12月に日本円は日銀が1995年以来の高水準まで利上げしたにもかかわらず対ドルで下落しました。

<株式市場>

株式市場は、7月は関税問題に関する前向きな合意により米国、英国、日本の株式が上昇しました。8月も世界的に上昇が継続しました。9月は米国の利下げサイクルの再開によりリスクオン・センチメントとなり世界的に株価が上昇しました。10月は米中間の貿易摩擦やプライベートクレジット市場での懸念等により変動の大きい市場となったものの、株式を含むリスク性資産の上昇が継続しました。

<コモディティ市場>

コモディティ市場は、9月は金が米国の利下げ期待、政府機関閉鎖懸念、地政学的緊張の高まりで価格が上昇し、銀も堅調に推移しました。一方、原油価格は石油輸出国機構（OPEC）の増産計画により世界供給見通しが上方修正され、下落しました。10月は金が史上最高値を更新したものの、月末にかけて上昇幅を縮小した一方、原油価格は軟調に推移しました。11月は銀が+16%超上昇し、7ヶ月連続で上昇しました。金も12月の米連邦準備制度理事会（FRB）の利下げ期待の高まりにより上昇しました。原油価格は在庫の積み上がりを背景に価格が下落しました。

<日本短期金融市場>

国庫短期証券3カ月物の利回りは、政策金利引き上げの影響等から期初は0.399%程度の水準でスタート、期末にかけては利上げ実施と追加利上げへの警戒感が広がるなか上昇し、期末時点においては0.720%程度の水準となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2025年7月16日～2026年1月15日）

<当ファンド>

「Man AHL Trend Core－日本円クラス（ヘッジなし）」の組み入れ比率を高位に保ちました。また、「Shinseiショートターム・マザー・ファンド」も組み入れました。

<Man AHL Trend Core－日本円クラス（ヘッジなし）>

Man AHL Trend Core Master Limitedへの投資を通して次のようにポートフォリオを構築しました。債券・金利は、7月の米連邦準備制度理事会（FRB）と欧州中央銀行（ECB）からのタカ派的なコメントにより国債利回りが上昇（債券価格は下落）したことより、ロング・ポジションからショート・ポジションに転換しました。その後、9月に米国債は利下げサイクルの再開により金利が低下し、再度ショート・ポジションからロング・ポジションに転換しました。12月になると、欧州での利上げ観測を背景に、金利が上昇し、ロング・ポジションからショート・ポジションに転換しました。

通貨は、7月の米連邦公開市場委員会（FOMC）でのパウエル議長の利下げに対する様子見の姿勢がドル高を促進し、主に英ポンド、ユーロ、日本円に対して米ドルが上昇したことから、米ドルのショート・ポジションを一部削減しました。9月は欧州通貨が米ドルに対して継続的に上昇したことから、米ドルのショート・ポジションを拡大させました。10月には豪ドルやカナダドルが米ドルに対して下落したことにより、米ドルをショート・ポジションからロング・ポジションに転換しました。12月には対米ドルで英ポンドやユーロが上昇し、米ドルを再びロング・ポジションからショート・ポジションに転換しました。

株式は、7月以降、関税に関する前向きな合意や米国での利下げサイクル再開を背景に、世界的に上昇が継続し、ロング・ポジションを高位に維持しました。11月にAI関連企業の決算の先行き不安を背景に株価が下落し、一時ロング・ポジションを削減しましたが、その後、再び株価が上昇に転じ、ロング・ポジションを積み増しました。

商品では、米国の利下げ期待、政府機関閉鎖、地政学的緊張の高まりにより金や銀の最高値更新が続いたことから、ロング・ポジションを高位に維持しました。原油は7月にロシアのエネルギー輸出業者に対して更なる制裁が科される可能性を背景に上昇したことから、ロング・ポジションを維持していましたが、12月に在庫の積み上がりを背景に価格が下落し、ロング・ポジションをショート・ポジションに転換しました。

<Shinseiショートターム・マザー・ファンド>

Shinseiショートターム・マザー・ファンドでは、主として国庫短期証券等を組み入れましたが、政策金利引き上げ以降は国庫短期証券等の利回りはプラスで推移する状況が続き、安定してプラスの利回り確保しています。

当該期間において、当マザーファンドの基準価額に大きな変動はありませんでした。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2025年7月16日～2026年1月15日）

当ファンドは国内外の投資信託証券への投資を通じて、実質的に先進国および新興国の多様な資産に投資することで、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適切な参考指数も存在しないことから、参考指数等も記載していません。

分配金

（2025年7月16日～2026年1月15日）

当期の収益分配金は、運用の効率性と基準価額の水準を勘案し見送ることといたしました。

なお、収益分配金にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第3期	
	2025年7月16日～ 2026年1月15日	
当期分配金 (対基準価額比率)	—	—%
当期の収益	—	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	3,553	

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針**<当ファンド>**

「Man AHL Trend Core—日本円クラス（ヘッジなし）」の組み入れ比率を高位に保ち、「Shinsei ショートターム・マザー・ファンド」を組み入れた運用を行います。

<Man AHL Trend Core—日本円クラス（ヘッジなし）>

先進国の債券・金利、株式、通貨及びコモディティを投資対象とし、システム運用により、それぞれの市場のトレンドに基づいて、ロング・ポジション及びショート・ポジションを構築することで、市場の上昇トレンドだけでなく下落トレンドからも収益を追求することを目的として運用を行います。

<Shinseiショートターム・マザー・ファンド>

市場の変動性の高まりを受けて、日本銀行は利上げが基本姿勢ながら市場が不安定な間は利上げをしないとのスタンスを維持していましたが、今後は円安や賃上げを背景とする物価上昇が実現していくなら利上げする方針に変化してゆくことが示唆されています。追加利上げのタイミングを見通すにあたり、内外経済の動向を示すデータおよび市場動向に対する日銀総裁や幹部の評価など発信される情報について注視する必要があります。

当ファンドでは引き続き当初の運用計画に基づき、国庫短期証券等に投資していく予定です。

お知らせ

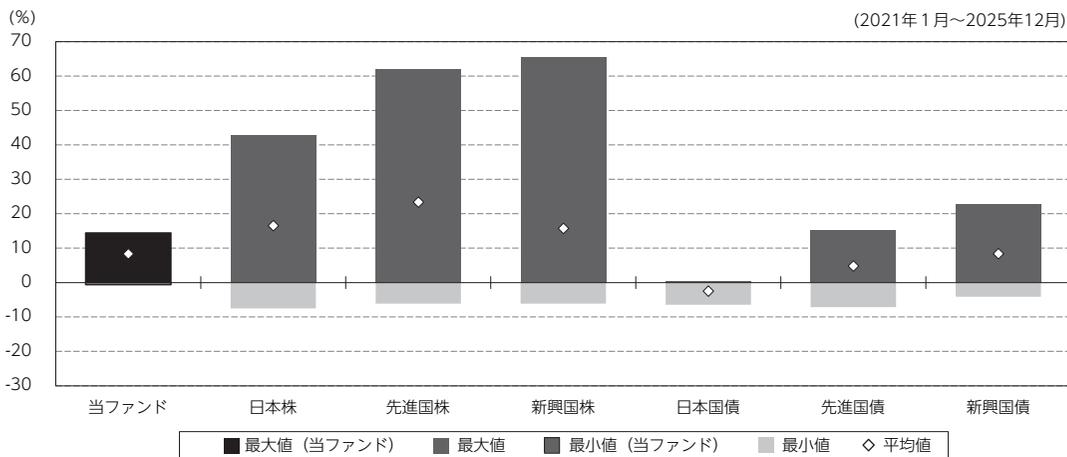
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）
信託期間	2034年7月12日まで（設定日：2024年8月16日）
運用方針	国内外の投資信託証券へ投資することにより、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	世界各国（新興国を含みます。）の株価指数、債券・金利、通貨、コモディティ等を実質的な主要投資対象とします。
運用方法	本ファンドは主としてアイルランド籍投資法人「Man Funds XVI ICAV」のサブファンドである円建外国投資信託証券「Man AHL Trend Core－日本円クラス（ヘッジなし）」（以下「外国投資信託」ということがあります。）への投資を通じて、先進国および新興国の株価指数先物取引、債券投資、債券先物取引、金利先物取引、為替先物取引およびコモディティ先物取引等を活用し、幅広い資産を実質的な主要投資対象とします。なお、国内の証券投資信託である「Shinseiショートターム・マザー・ファンド」受益証券への投資も行います。
分配方針	年2回（原則として1月と7月の各15日。休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。収益分配にあてなかった留保益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	14.4	42.8	62.1	65.6	0.6	15.3	22.7
最小値	△ 0.6	△ 7.5	△ 6.1	△ 6.1	△ 6.5	△ 7.1	△ 4.1
平均値	8.3	16.5	23.4	15.7	△ 2.5	4.8	8.4

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2021年1月から2025年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、2025年8月から2025年12月のデータを基に算出しています。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《代表的な各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、P13の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2026年1月15日現在)

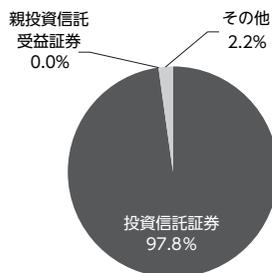
○組入上位ファンド

銘柄名	第3期末
	%
Man AHL Trend Core-日本円クラス (ヘッジなし)	97.8
Shinseiショートターム・マザー・ファンド	0.0
組入銘柄数	2銘柄

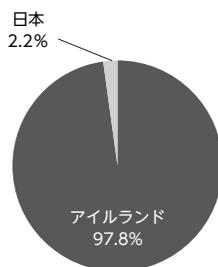
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

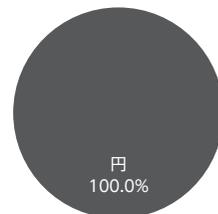
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注3) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第3期末
	2026年1月15日
純資産総額	13,168,168,085円
受益権総口数	9,793,044,553口
1万口当たり基準価額	13,446円

(注) 期中における追加設定元本額は943,963,511円、同解約元本額は5,055,488,508円です。

組入上位ファンドの概要

Man AHL Trend Core－日本円クラス（ヘッジなし）

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。

【基準価格の推移】

(2024年8月20日～2024年12月31日)



【1万口当たりの費用明細】

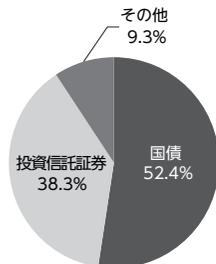
入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載していません。

【組入上位10銘柄】

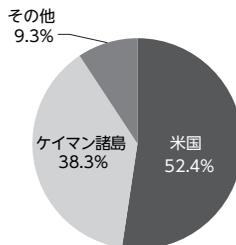
(2024年12月31日現在)

銘柄名	国・地域	通貨	比率
1 AHL Trend Core Master Limited	ケイマン諸島	米ドル	38.3%
2 United States Treasury Bill 0% 20250227	米国	米ドル	17.8
3 United States Treasury Bill 0% 20250320	米国	米ドル	15.8
4 United States Treasury Bill 0% 20250213	米国	米ドル	14.9
5 United States Treasury Bill 0% 20250424	米国	米ドル	3.9
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
組入銘柄数	5銘柄		

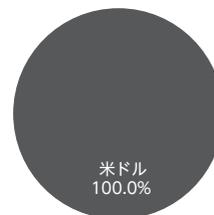
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別配分は、2024年12月31日現在のものです。

(注2) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

Shinseiショートターム・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2024年4月23日～2025年4月21日)



【1万円当たりの費用明細】

(2024年4月23日～2025年4月21日)

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2025年4月21日現在)

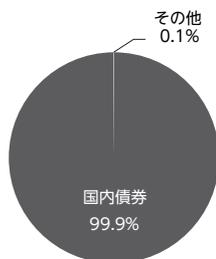
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	第1290回国庫短期証券	国債	日本円	日本	99.9%
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			1銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注3) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数点第2位で四捨五入しているため、合計が100%に満たない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照下さい。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

〈各指数の概要〉

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はモーニングスター・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。